

# 正しい剣道

北海道

砂川錬心館

小学6年 平川嵩惺

「正しい剣道をしなさい」父から言われた言葉が今も強く心に残っている。

二年生の時、砂川に引っ越し、父が子供の頃学んだ、砂川錬心館に通うことになった。

初心者だった頃は、稽古は簡単で、楽しかった。稽古が無い日は、つまらなかった。仲間もできた。先輩達はやさしく、かっこよかった。

一年が過ぎ、特錬に上がって、試合をするようになると、稽古は、今までとは比べものにならない程、厳しく、以前はできていた基本ができず、形が崩れていった。

稽古に慣れてきた頃、大会に出場する為の選手選考試合があった。特錬とともに稽古に励む仲間に勝てず、大会でも活躍できなかった。悔しくて、何とか勝ちたい思いが強く、父に新しい技を教わろうとした。

しかし、父は、

「今、焦る気持ちは良くわかる。ただしお前は必ず強くなる。正しい剣道をしろ。いずれ勝てるようになる。自分を信じろ。」

父を信じて、自分を信じて、正しい剣道をするしかない、と思ったが、なかなか結果が出ず、悩むようになった。そんな時、

「目先の勝ち負けにはこだわらな。中学、高校、大人になっても通用する剣道を身に着けよう」

という父の言葉で、

「そうか、今すぐに勝てなくてもいいんだ。自分のペースで強くなろう。」

そう思えるようになった。

四年生になって、少しずつ勝てるようになった。特別、勝つための工夫をしたわけではない。基本を大切にただけだった。構えは正しく、心は動かさない。正しい打突で捨てて打つ。これも「正しい剣道」を意識したおかげだ。

五年生になると、新型コロナウイルスの影響で稽古ができない日々が続いた。初めての経験だった。素振りや足さばきを中心に、体力が落ちないように自主トレーニングをしたが、試合があったら勝てるかどうか不安だった。しかし、自分の剣道を見つめなおす良い機会になった。

最近になって、気づいたことがある。「正しい剣道」とは、正しい打突や足さばきだと思っていた。しかし、先生方に指導していただいたことを身につけ、少しでも上達しようと、剣道にまっすぐ向き合い、剣道が好きだという気持ちを大切にすることも、「正しい剣道」だと思えるようになった。

剣道のすばらしさは、勝ち負けではなく、稽古や試合を通してお互いを尊重し、高め合えるところである。学力や運動能力、考え方や価値観など、十人十色である。人はみな、優劣をつけてしまいがちだが、本当の仲間との「絆」について、剣道は教えてくれた。

剣道の理念。剣道は、剣の理法の修練による、人間形成の道である。ぼくは、このように思う。「正しい剣道」をすることは、剣の理法を修練することである。つまり、「正しく生きる」につながっていくのではないか。「正しく生きる」とは、周りと支え合いながら生活し、自分の言動を振り返り、「交剣知愛」の輪を広げていくことであり、これからも剣道を通して実践していきたいと思う。

砂川錬心館では、ご高齢の先生方に、指導していただくことも多い。父も子供の頃、その先生方に教わったそうだ。先生方も、子どもの頃は、先生に剣道を教わっていて、古くから受け継がれてきた、剣道の伝統を感じる。尊敬する諸先生方のように、ぼくも、「正しい剣道」「正しく生きる」ということを、未来の子供たちに伝えることのできる指導者になりたいと思っている。